

文化祭に期待！ ～みんなの力を結集して！～

いよいよ今週末に文化祭が行われます。合唱や舞台発表、作品展示など、これまでの学習や文化的活動の成果、日頃取り組んでいる特技を発表する大きな機会です。今年はどんな発表があるか大変楽しみです。

また、文化祭などの行事では出演者だけでなく、準備や運営に携わる人（スタッフ）の力も欠かすことができません。両方の力が結集されてこそいい行事が開催できるのです。



3度ワールドチャンピオンに輝いた日本人

さて、プロ野球の話です。日本では今週末から日本一を決める日本シリーズが行われますが、野球の本場アメリカ（メジャーリーグ）ではすでにワールドシリーズが行われ、優勝チームが決まりました。メジャーリーグでは、優勝するとチームから選手一人一人に「チャンピオンリング」という指輪が贈られます。かつて活躍した松井秀喜選手や上原浩治選手もこの指輪を手に入れました。そうした中で、3度もワールドチャンピオンに輝いた人がいます。

その人は、植松泰平（うえまつたいら）さん。ポジションはキャッチャーです。それもブルペンというピッチャーが次の出番に備えるため投球練習を行う場所のキャッチャーで、試合に出場することはありません。観客の前に出ないので、歓声や拍手を浴びることもありません。けれども植松さんはこのブルペンキャッチャーという仕事に生きがいをもって励んでいます。どんな生きがいだと思いますか？

チームメイトの活躍を支える心遣い

彼の生きがいは、ピッチャーの気持ちを盛り上げてマウンドへ送り出すことです。彼は、日本で磨いたキャッチングの技術を使って、速球はもちろん、変化球やどことなくせのある球でも、ミットの中心で「バーン」「バスン」と快音を立てて捕球するようにしています。すると、ピッチャーは「おっ、今日もいい調子だな」「球が走っているな」とだんだんいい気分になります。受けたボールを返球するときも、なるべく早く丁寧に返します。その方が、ピッチャーがリズム良く、気持ちよく投げられるからです。そうして気分上々でピッチャーマウンドに向かうわけですから、いい投球ができないはずがありません。彼の心遣いが、チームメイトの活躍につながっているのです。

ある時、植松さんがブルペンに入ると、観客から「タイラ！」と声を掛けられたそうです。試合に出たことはないのに、まわりのファンにも植松さんの功績が伝わり、評価されているのです。所属チームからは「ブルペンキャッチャーを任せられるのは植松しかいない」と高く評価されています。その間にチームは3度もワールドチャンピオンに輝き、植松さんにもチャンピオンリングが贈られたのです。

今週末の文化祭。一人一人にいろいろな役割があると思います。目立たなくても、地味な仕事でも、ていねいに頑張ってみましょう。きっと心に残る文化祭になりますよ。



